



徳川家康公顕彰四百年記念事業 事業報告書



四百年の時を超えて

徳川家康公顕彰
四百年記念事業
事業報告書



徳川家康公
顕彰 四百年
記念事業

事業報告書



徳川家康公顕彰四百年記念事業 事業報告書 目次

徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会会長挨拶(徳川宗家第18代当主).....	3
// 副会長挨拶(静岡市長).....	4
// 副会長挨拶(静岡商工会議所会頭).....	5
// 副会長挨拶(浜松市長).....	6
// 副会長挨拶(浜松商工会議所会頭).....	7
// 副会長挨拶(岡崎市長).....	8
// 副会長挨拶(岡崎商工会議所会頭).....	9
// 顧問挨拶(静岡県知事).....	10
家康公顕彰四百年記念事業の趣旨・目的・シンボルマーク.....	12
家康公顕彰四百年記念事業のまとめ.....	13
静岡市での主な事業.....	14
浜松市での主な事業.....	22
岡崎市での主な事業.....	30
静岡・浜松・岡崎3市での主な共同事業.....	38
静岡県での主な事業.....	40
記念切手発行・記念グッズなど.....	42
シンボルマーク使用商品・事業.....	44
家康公顕彰四百年記念事業に関わる広報ツール.....	54
マスコミ等による広報活動.....	56
新聞掲載記事.....	57
全国の家康公顕彰四百年記念事業一覧(ブレ事業を含む).....	62
2015年の10大ニュース.....	73
徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会の概要.....	74
徳川家康公顕彰四百年記念事業各部会の概要.....	78

徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会
会長挨拶

家康公の平和への思い脈々と



徳川宗家
第18代当主
徳川恒孝

2015年、我が国では徳川家康公が薨去されて四百年目という歴史的な節目の年を迎えました。

「静岡県」並びに、生誕の地「岡崎市」、出世の地「浜松市」、大御所の地「静岡市」では、2012年夏から「徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会」の各部会を設置され、様々な事業を準備していただきました。おかげさまで、家康公の功績や徳川時代の歴史的意義を改めて見つめ直す多くの事業が展開され、「家康公四百年祭」を全国的に盛り上げることができました。

これも偏に自治体・商工会議所・神社仏閣の皆さま、そして何より「家康公四百年祭」にご理解をいただいた多くの市民の皆さまのご協力の賜物と厚く御礼申し上げます次第です。

これまで、ともすれば封建社会として否定的に捉えられがちであった「徳川時代」ですが、実は多くの驚くべき知恵によって成立していた社会であり、近年あらゆる面から再評価が進んでいます。私どもは、この記念事業を通じて、世界史上に例のない平和国家であった「徳川時代」を今こそ再認識すべきということを申し上げてまいりました。

世界では依然として領土問題や地域紛争などが深刻さを増しており、多くの人々が厳しい状況下に置かれています。

私どもは、現代の困難な局面において人類の道標となるのが徳川時代の知恵ではないかと考えています。

このような考えを「家康公四百年祭」を通じて全国の多くの皆さまと共有することができましたことは、私にとりまして大変大きな財産となりました。

この間に培われました全国の皆さまとの連携の輪は、今後とも大切にしていきたいと思います。

家康公四百年祭の終了とともに「徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会」は解散となりますが、今後は「全国家康公ネットワーク」という後継組織が立ち上げられます。

このネットワークには、全国の徳川家ゆかりの関係機関の皆さんにも広くメンバーとなっていただく予定となっており、大変うれしく感じている次第です。

こうした皆さんの思いが、50年後の四百五十年祭を迎える人々、100年後の五百年祭を迎える人々へと脈々と受け継がれていくことを切に願っております。

結びに、これまでの皆さまのご理解とご支援に感謝申し上げますとともに、引き続き格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。御礼の言葉といたします。

「家康公が愛したまち」の魅力を 国内外に発信



静岡市長
田辺 信宏

2015年に郷土の偉人である徳川家康公の薨去四百年を迎えることから、家康公の魅力と功績を未来へ継承するため、2011年に静岡商工会議所の掛け声のもとにスタートした「家康公四百年祭」は、浜松市・岡崎市と各市の商工会議所・静岡県と連携しながら、様々な事業を展開してまいりました。

家康公は、類まれな知恵と知識、リーダーシップによって、日本という国を統治し、世界史上例をみない平和な時代をもたらした世界的な偉人です。本市は家康公が幼年・壮年・晩年と人生の約3分の1を過ごしたまちであり、戦国の世を終わらせ平和を実現することにかけて家康公の生涯が完結したまちでもあります。家康公の関連史跡等が数多く残る本市は「家康公のまちとしての誇りの確立」「歴史的都市空間の創造」「家康公にならった国際交流都市の創造」「家康公を活かした地域ブランドの確立」の4つの視点に立ち、2015年1月の四百年祭のオープニングセレモニーを皮切りに、春のシンボルイベント「静岡まつり」での全国の伝統ある祭りや秋のシンボルイベント「駿府天下泰平まつり」での最先端のデジタルアートなど、年間を通じて多彩なプログラムにより家康公の偉業の数々を肌で感じていただくとともに、「家康公が愛したまち」の魅力を国内外に発信しました。また、多くの皆さまにこの四百年祭に関わっていただくための市民参画補助金制度を設けるなど、官民一体となって取り組んでまいりました。

こうして、多くの市民の皆さまや経済界の皆さまがそれぞれの視点で多彩な自主事業を展開していただき、四百年祭を盛り上げていただいたことは大きな喜びであり、家康公の功績が数多くの皆さまの心に刻まれ、ゆかりの地に暮らす人々の郷土に対する誇りが一層強くなったものと確信しております。また、この事業を機に芽生えた交流の輪が少しずつ拡がりながら、大きな推進力となって、これから始まる新たなステージの扉を開くことができたと考えております。私も先人たちが築き上げた歴史の上に、新たな価値を創造し、未来へ引き継ぐ責任を改めて感じているところであります。

本市はこれから、「歴史文化のまち・静岡」を目指し、『400+（プラス）プロジェクト』を推進し、「歴史文化」というかけがえのない財産を磨き上げ、それを地域の活力に転換しながら、地域の活性化が図られるよう今後も官民一体となって、まちづくりを進めてまいります。

結びに、本事業にご参加いただきました皆さまにお礼を申し上げますとともにご協力いただきました全ての皆さまの温かいご支援・ご協力に心より感謝申し上げます。

家康公ゆかりの地の連携を



静岡商工会議所
会頭
後藤 康雄

2015年、「家康公四百年祭」を迎えるにあたり、私どもは2011年に「徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会」を静岡に設置いたしました。

この推進委員会の会長にご就任いただいた徳川宗家第18代当主の徳川恒孝様からは、この「家康公四百年祭」を静岡市や浜松市だけでなく、岡崎市をはじめとした全国の家康公ゆかりの地と一緒に盛上げるようご助言をいただきました。

このご助言を受け、2012年には岡崎市や岡崎商工会議所などに推進委員会の役員として就任いただき、県境を越えた地域間連携により記念事業を進める運びとなりました。そうした結果、「家康公四百年祭」は全国の家康公ゆかりの各都市へと広く波及し、さらにイギリス・スペイン・韓国・台湾など海外においても関連事業を実施することができました。

「家康公四百年祭」本番となった2015年、静岡市においては1月に静岡浅間神社で行われた「オープニングセレモニー」に始まり、4月の「徳川家臣団大会」「久能山東照宮御鎮座四百年大祭」、6月の「朝鮮通信使シンポジウム」、そして夏休み期間には県内の小中学生を対象とした「徳川記念財団作文コンクール」など、数多くの事業が実施されました。また、世界史上に例をみない265年にもわたる平和国家であった徳川時代の知恵や歴史的意義を広く発信するため、プレ事業としてスタートしていた「徳川みらい学会」も年間を通じて実施いたしました。

推進委員会が後援した四百年祭関連事業は約500件にのぼり、また商品やチラシなどへのシンボルマークの使用申請も440件を超えるなど、記念事業が広く浸透したことも大きな喜びのひとつです。

私どもは、これまでの取り組みを一過性のものとせず、引き続き地域の魅力向上と観光・文化の振興に活かしていくため、家康公顕彰事業を継続してまいりたいと考えております。「徳川家康公顕彰四百年記念事業推進委員会」は解散となりますが、今後はこの記念事業を通じて連携を深めてまいりました全国の家康公ゆかりの関係機関の皆さまとともに、「全国家康公ネットワーク」という後継組織を設立・運営していく予定です。

これまで「家康公四百年祭」に際してご厚情を賜りました関係各位の皆さまに深く感謝致しますとともに、今後とも変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。御礼の言葉とさせていただきます。

浜松時代の家康公像に迫る 重要な文化観光資源に



浜松市長
鈴木 康友

徳川家康公が薨去されて四百年の節目の年に、家康公にゆかりの深い静岡市・岡崎市及び各商工会議所、静岡県ของ皆さまとともに顕彰事業を盛大に開催できましたことを、大変嬉しく、また光栄に思います。

家康公が29歳から45歳までの青壮年期を過ごし、乱世の世に飛躍的な出世を遂げられたのが、当地「浜松」でございます。本市では、歴史を改めて考証し、当時を再現することにより、浜松時代の家康公の実像に迫りました。浜松に来た頃、家康公はまだ小大名でした。また、戦いに明け暮れていたこともあり、残念ながら浜松時代の史料や遺物などはほとんど残されておられません。逆にそうした時代だからこそその劇的なストーリーがあり、それをどなたでもわかりやすい形で伝えることに注力してまいりました。事業を監修する静岡文化芸術大学の磯田道史教授の研究により、浜松時代を象徴する合戦、三方ヶ原の戦いに関する史実の細部や、当時の家康公の容姿などが鮮明になってまいりました。その研究成果を像やジオラマなどの作品に反映させることにより、数少ない浜松時代の家康公の資料を目に見える形で後世へ伝えていくための、重要な文化観光資源となりました。

また、来年の大河ドラマの主人公が、のちに徳川四天王「井伊の赤鬼」として活躍し、たぐいまれな出世を成し遂げた井伊直政の後見人、「井伊直虎」に決定しました。井伊家当主・直盛の一人娘として生まれ、覇権争いに巻き込まれて次々と男子を失った井伊家を救うため、「井伊直虎」を名乗り、井伊家の存続危機を救った人物です。遠州地域が舞台であり、多くの観光客の皆さまがお見えになることと思いますので、当事業を通じて作り上げてきた家康公の「見える化」作品や地域の観光資源・文化資源を併せてアピールしていきたいと思っております。

結びにあたりまして、本事業の開催にあたり、多大なるご理解とご協力、ご指導を賜りました関係者の皆さま方に心からお礼申し上げます。今後も、家康公が天下統一の礎を築き出世した街として、生誕の地岡崎、大御所の地静岡とともに、地域の魅力向上を図ってまいります。さらには、記念事業の実施による成果と連携体制を活かし、三都連携による「日本遺産」認定に向けた取り組みを進めてまいります。

世界平和構築に向け 貴重なメッセージを発信



浜松商工会議所
会頭
大須賀 正孝

徳川家康公薨去四百年目という記念の年に、家康公が礎を築いた「徳川時代」について再考し、その知恵を未来の日本、そして世界へ発信する目的で実施された本事業が、関係各位のご努力により、このたび成功裏に終了いたしましたことを、心よりお礼申し上げます。

「徳川時代」の日本は、「265年続いた世界史上例を見ない平和国家」として、また「あらゆるものをリサイクルする究極の循環型国家」として知られております。

そしてその政策は、外交面では経済・文化交流を基軸とした平和外交を推進し、内政面では戦国時代を終焉させ、積極的な軍縮政策を進めるなど、現代の私たちに、「国の在り方」について多くの叡智と示唆を与えるものでした。

日本をはじめ、世界中の方々が家康公から学びを得て、現代の国づくりに活かすことができれば、「環境問題」「経済問題」「無益な軍拡競争」など、多くの課題について、解決の方向性が示されるでしょう。

この視点から考えますと、今回の事業は、当地から日本全国そして世界に向けて発信された、ささやかな、しかし貴重な世界平和構築に向けてのメッセージにもなったのではないかと考えております。

また、家康公というカリスマの下で、「静岡県」「岡崎市」「岡崎市」そして私たち「浜松市」の官民が一体となり、協力して地域振興に取り組むことができたことも、大きな収穫と言えます。

本事業を通じて私たちが手に入れた経験と絆は、今後の地域間連携や観光振興を進めるうえでも大きな力となっていくでしょう。

ご存知の通り、2017年度の大河ドラマは、浜松に由来し、徳川家にも縁が深い井伊家を描いた「おんな城主 直虎」に決定いたしました。

本事業の経験を活かしつつ、この機会を捉えて「直虎ゆかりの地 浜松」をPRすることができれば、浜松地域経済に大きな実りをもたらすことができるのではないかと期待しております。

市民の誇りの醸成につながる “岡崎らしさ”を



岡崎市長
内田 康宏

この家康公四百年祭は、家康公生誕の地である本市にとって大変意義深いものであります。事業の推進にあたっては、岡崎部会に実行委員会を組織し、官民連携、全市をあげて取り組んでまいりました。事業実施にあたりご協力いただいた皆さま、大変ありがとうございました。そして、四百年祭をきっかけに岡崎を知っていただいた皆さま、訪れていただいた皆さまにも感謝申し上げます。家康公の生誕日である12月26日に開催したエンディングセレモニーでは、約3万個のLEDボールを岡崎城下の乙川に流す「泰平の祈りプロジェクト」を行いました。青く光る「いのり星」が川面に放たれ、ゆったりと流れる幻想的な光の帯は、時を超えて脈々と受け継がれてきた、泰平の世を願う人々の心のように感じ、気持ちを新たにしました。3年余りにわたる数々の記念事業を通して、家康公や江戸時代について学ぶ機会を多くいただき、人としての家康公、リーダーとしての家康公、様々な面でその偉大さに触れ、家康公や三河武士団を輩出したこの岡崎市を改めて誇りに思いました。そして、このことをより広く知っていただき、より多くの方々に訪れていただきたいと思うと同時に、市外県外の方々だけでなく、本市に暮らす市民の皆さんにも、岡崎市民というアイデンティティーを持っていただきたいと思えます。そのようなまちづくりを目指し、本市においては、2015年を「観光産業都市実現へのステップの年」と位置づけ、回遊促進事業や人材育成事業など、おもてなし施策を中心に進めるとともに、家康公生誕の地にちなんだ観光振興に活かそうと、2015年4月に「家康公観光振興基金」を設立しました。今後も、「家康公」を観光まちづくりの核と位置づけ、ハード・ソフト両面にわたって活用し、観光客のおもてなしに加え、市民の誇りの醸成につながるような“岡崎らしさ”を大切に事業推進を図りたいと考えています。

さて、2016年は、市制施行100周年という記念すべき年を迎えます。さらなる飛躍の年となるようステップアップし、「家康公生誕の地 岡崎」の発信に努めていきます。そして、26年後の2042年は、「家康公生誕500年」にあたります。生誕500年祭の岡崎に暮らす市民が、岡崎に生まれたことを誇りに思い、誰もが、訪れたい、住んでみたいと思う「夢ある次の新しい岡崎」の実現に取り組んでまいります。

世界史的にも稀な 大政治家へと再評価



岡崎商工会議所
会頭
古澤 武雄

徳川家康公顕彰四百年記念事業の実施にあたりましては、徳川ご宗家をはじめご関係の皆さま方には格別のご理解とご支援、ご協力をいただき、まことにありがとうございました。特に、家康公生誕のまち・岡崎にとりましては、本事業のエンディングを家康公の473回目の誕生日にあたります12月26日、岡崎城エリアにて「泰平の祈り」「提灯行列」、締め「三河花火」など、厳かに、また盛大に執り行うことができ、ご遠来の皆さまならびに多くの市民の皆さまとともに四百年祭を祝い、喜びを分かち合うことができましたことを、大変有り難く、厚く御礼申し上げます。

さて、岡崎での本事業は、2012年11月26日、松平家・徳川家の菩提寺・大樹寺での岡崎部会発会式からスタートし、以来3年間、岡崎商工会議所四百年特別委員会、並びに岡崎市に事務局を置きます岡崎部会実行委員会にて様々な事業を企画、実施してまいりました。3市3商工会議所合同の「家康公検定」や各種講演会の開催、旅行商品の開発、また雑誌や新聞、テレビなどマスメディアでの特集など、家康公を学んでいただく機会が集中的に数多く持たれたことにより、戦国から泰平の世へと時代の大転換を成し遂げた、世界史的にも稀な大政治家へと家康公の再評価が為され、イメージも大きく変わってまいりました。

また、今回の事業によりまして、徳川ご宗家だけでなく、三河武士や幕臣のご子孫の皆さま方も、時を経て新たなご縁を頂戴することができたとともに、静岡市や浜松市は無論のこと、家康公ゆかりの全国各地の行政、商工会議所とも新たな交流の機会を得、“家康公と三河武士のふるさと、岡崎”の今後のまちづくりのグランドデザインにも関わる、非常に大きな機会をいただくことができました。

岡崎市制100周年の本年は、三河を統一した25歳の家康公が、朝廷から従五位下・三河守に任じられ、松平から徳川への復姓を許され、徳川家康を名乗って450年という記念の年でもあります。四百年祭は区切りを迎えますが、われわれ“家康公ゆかりのまち”にとりましては、これを一過性のイベントに終わらせることなく、「岡崎宣言」に則り、市民の皆さまの誇りの醸成、地域の魅力向上による観光振興、そして地域経済と地域文化の活性化に向け、引き続き家康公の顕彰事業を進めてまいりたいと存じますので、今後一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

郷土の偉人家康公の功績を 広める機となった「家康公四百年祭」



静岡県知事
川勝 平太

2015年は、徳川家康公薨去(1616年)400回忌に、公の遺徳を偲ぶ年間行事「家康公四百年祭」を立ち上げ、岡崎・浜松・静岡の三市を中心に、「徳川みらい学会」の文化事業、『ふじのくに家康公観光事典』の制作など、家康公の人物像、歴史、功績を人々に広く発信しました。御協力頂いた各位に厚く御礼を申し上げます。

400年余り前、家康公は江戸に幕府を開きました。400年は特別な数字です。ほぼ400年ごとに日本は大転換を経験したからです。家康公の400年前、武士が勃興し、鎌倉に幕府が開かれました。その400年前、京都に平安京が築かれ、公家文化が花開きました。公家から武家へと主役は変わりましたが、時代が下るにつれ武家は公家に影響され、足利将軍は京風に染まりました。信長・秀吉も安土・伏見・大阪など京都周辺に拠点を築きました。京都という磁場の磁力は巨大でした。

しかし家康公は、京都の磁力から脱し、「ポスト京都時代」を開きました。現代に至る「江戸・東京時代」400年の礎は家康公が築いたものです。

京都のモデルは中国です。徳川社会は中国文化からも卒業しました。城下町、武士道、お茶、お花、建築(数寄屋)、庭、小袖、能・狂言、浄瑠璃・歌舞伎等々、日本文化が確立しました。武士は経世済民を職分とし、例外なく、学問をしました。一万円札に武士出身の福沢諭吉が印刷されています。それは福沢が「学問のすすめ」を書いたからです。日本政府は「学問立国」の顔を世界に通用させています。その源は徳川家康公です。徳川時代の後半に国学が発達し、国土の象徴・富士山の地位が確立しました。

たとえば、

大君は 神にしませば 天雲の 雷の上に 庵せるかも

という柿本人麻呂の歌を、国学者の賀茂真淵(遠州)は本歌取りして

駿河なる 富士の高嶺は 雷の 音する雲の 上にこそ見れ

と詠んで、天皇(国民の象徴)と富士山(国土の象徴)とを同格にしました。

徳川時代は何より平和な時代であり「パックス・トクガワナー(徳川の平和)」と言われる。本年秋に県立美術館で徳川社会の「美と叡智」に学ぶ特別記念展示があります。温故知新です。過去を振り返り、未来の日本づくりに向けて「パックス・トクガワナー」の知恵蔵を開いていくのが、現代に生きる私達の務めです。

家康公年譜

	年齢	西暦(年号)	出来事
岡崎	1	1542(天文11)	三河岡崎城主松平広忠の長男として誕生(12月26日)、幼名竹千代。
	6	1547(天文16)	今川氏の人質として駿府に行く途中、田原城主の戸田康光に奪われ、尾張・織田信秀の人質になる。
	8	1549(天文18)	父広忠が家臣に暗殺される。織田信広(信秀の子)と竹千代の人質交渉が成立し、駿府の今川家の人質となる。
静岡	14	1555(弘治1)	元服し、松平次郎三郎元信と改める。
	16	1557(弘治3)	関口義広の娘(後の築山殿)をめとる。このころ家康と改名。
	17	1558(永禄1)	初陣。三河寺部城を攻める。
	19	1560(永禄3)	桶狭間の戦い(義元敗死)。家康は戦地から岡崎に戻る。
岡崎	21	1562(永禄5)	織田信長と同盟を結ぶ。
	22	1563(永禄6)	長子信康、織田信長の娘徳姫と婚約。このころ家康と改名。
	23	1564(永禄7)	三河の一向一揆を平定し三河全域を支配。
	25	1566(永禄9)	松平から徳川に改姓。
	27	1568(永禄11)	武田信玄の駿府侵攻に合わせ、遠江へ侵攻。
	29	1570(元龜1)	岡崎城を信康に譲り、浜松城に移る。織田・徳川連合軍が姉川で浅井・朝倉連合軍を破る。
浜松	31	1572(元龜3)	三方ヶ原の戦い(信玄に大敗)。
	34	1575(天正3)	信長と家康の連合軍が長篠の戦いで武田軍を破る。
	40	1581(天正9)	高天神城を攻略し、遠州の全域を平定。
	41	1582(天正10)	武田勝頼を滅ぼす。信長から駿河一国を与えられる。本能寺の変(6月信長死去 享年49歳)。
	43	1584(天正12)	豊臣秀吉と小牧・長久手で戦う。
静岡	44	1585(天正13)	豊臣秀吉、関白に就任。駿府城の修築に着手。
	45	1586(天正14)	浜松城から駿府城に移る。
	47	1588(天正16)	駿府城の天守が完成。
	49	1590(天正18)	小田原攻め、出陣。北条氏滅びる。秀吉の命により、関東に国替、江戸城に移る。
	57	1598(慶長3)	秀吉死去(享年63歳)。
	59	1600(慶長5)	関ヶ原の戦い。家康の東軍が石田三成の西軍を破る。
江戸	62	1603(慶長8)	征夷大将軍となり、江戸に幕府を開く。
	64	1605(慶長10)	秀忠に征夷大将軍を譲る。
	66	1607(慶長12)	駿府城を修築し、大御所政治を開始。駿府城中から出火し、天守並びに殿舎焼失。
	67	1608(慶長13)	本丸殿館が完成。
	70	1611(慶長16)	スペイン国王使節、駿府城にて家康公に謁見し、洋時計献上。
	72	1613(慶長18)	イギリス国王使節、イギリス商館の開設を許可される。
	73	1614(慶長19)	大坂冬の陣。
	74	1615(元和1)	大坂夏の陣。大阪城落城、豊臣氏滅びる。
没後	75	1616(元和2)	藤枝の駿河田中で鷹狩り後発病。駿府城にて薨去(4月17日)。遺言により久能山に埋葬される。
		1617(元和3)	東照大権現の神号を受ける。久能山東照宮を造営。
		1915(大正4)	家康公薨去三百年祭
		1965(昭和40)	家康公薨去三百五十年祭
	2015(平成27)	家康公薨去四百年祭	

